

▶「バーコードのついた『利用者カード』を使った図書の貸し出し」



## インターネットで蔵書検索

市立図書館蔵書検索システム供用開始

市立図書館の『蔵書検索システム』が3月1日金から供用を開始しました。

同システムは、図書館と移動図書館『こぐま号』、鷺別・登別支所、登別市地域情報センターをオンラインでつなぎ、どこからでも図書の貸し出しや返却ができるほか、各施設に設置しているパソコンや各家庭のパソコンから、図書の検索や貸し出し中の図書の予約などが行えるようになりました。

また、これまでの貸出券に変わり、バーコードの付いた『利用者カード』で、貸し出しや返却などをコンピューターで処理し、業務の迅速化を図りました。

パソコンから図書の予約ができるシステムは、道内でも当市が初めて。

図書の予約をする場合にはパスワード（暗証番号）が必要になりますので図書館でパスワードの登録をしてください。

また、図書の貸し出しは1人10冊までのため、より多くの図書をご利用いただくためにも、『利用者カード』はご家族それぞれでお持ちになりご利用ください。

▶「登別市地域情報センター『P i P』に設置された蔵書検索用パソコン」



## 『P i P』、『ふおれすと鉱山』と呼んでください

～地域情報センターとネイチャーセンターの愛称決定～

昨年11月に登別中央ショッピングセンター・アーニス2階にオープンした地域情報センターと、4月25日(木)に鉱山町にオープンするネイチャーセンターの愛称が決まりました。

愛称はいずれも市の広報紙などで公募し、地域情報センターには123作品、ネイチャーセンターには125作品の応募がありました。

地域情報センターの愛称には、気軽にパソコンに触れて楽しむときの操作音を連想させ、小さな子どもにも親しみやすい小川昭広さん（柏木町）の作品『P i P』が、ネイチャーセンターの愛称には、鉱山町の豊かな森を連想させる角広希さん（西陵中学校2年）の作品『forest 鉱山』をもとに、平仮名のもつ柔らかさを生かした『ふおれすと鉱山』が採用されました。

◀地域情報センター



## 楽しい冬の一日を満喫

～カルルス温泉冬まつり～

3月3日(日)、カルルス町のカルルス温泉サンライバスキー場で、登別市や登別観光協会、どうなん興産主催の『カルルス温泉冬まつり』が開催され、多くの家族連れが、楽しい冬の一日を満喫していました。

とき折小雪がちらつく天候の中、会場では無料スキー講習会やスノーボード講習会、親子ボブスレー大会、チューブレース大会、雪原宝探し、歩くスキーの集いなどが行われ、親子ボブスレー大会には、50組の親子が出場し、勢いあまって転倒する親子もあり、大きな笑い声が会場に響いていました。



## みなさんに支えられ卒業

～『平成13年度登別市老人大学卒業式及び修了式』～

2月21日(日)、市民会館で、『平成13年度登別市老人大学卒業式及び修了式』が行われました。

この日、晴れて老人大学を卒業したのは、42人（男性14人、女性28人）。同大学総長の上野晃市長から一人ひとりに卒業証書が手渡され、卒業生らは感慨深げに受け取っていました。

卒業生代表の石亀裕さん（柏木町）は、「みなさんに支えられて卒業できました。老人大学で身につけたことを地域に役立たせていきたい」とお礼の言葉を述べました。

